

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西消防署庁舎建設工事	階数	地上3F
建設地	大阪府堺市西区鶴田町89-1、89-3、	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年5月 予定	評価の実施日	2012年6月30日
敷地面積	2,588 m <sup>2</sup>	作成者	内田清次
建築面積	1,073 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,608 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ◎災害に強い安心・安全な庁舎 ◎地域に開かれた親しみある庁舎 ◎環境を考慮した庁舎 ◎ライフサイクルコスト・将来性を考慮した庁舎 ◎人にやさしい庁舎		0
<b>Q1 室内環境</b> 音環境、温熱環境については、概ね平均レベル程度の配慮とし、光、視環境については、屋光利用という点で、南・東面に窓を多く配置し、屋光利用に配慮している。また、ブラインド等を設置することにより、グレアを制御している。空気環境についても、化学汚染物質を（告示対象外の建材及び、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆）をほぼ全面使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> バリアフリー化を図り、だれでも使いやすい仕様とし、事務室等の執務スペースは天井高を2.7以上とし開放的な空間としている。また、リフレッシュスペースの設置、内装材の天然素材等利用など、利用者へ配慮をしている。また、建物の維持管理に配慮するため、内・外装材に多く防汚タイプの材料を使用している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 周辺まちなみ・景観・地域性、アメニティへの配慮は標準レベルとしている。敷地内に緑地帯を多く配置し、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を制御している。
<b>LR1 エネルギー</b> 自然エネルギーの直接利用としてトップライトを配置し自然光を取り入れている。また、自然エネルギーの変換利用とし、太陽光発電、太陽熱利用を採用し、自然エネルギーを多く利用できるよう配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 雨水貯留槽を設け、雨水利用できるよう配慮した。また、リサイクル材料を多く利用し環境に配慮している。その他有害物質の含まない材料の積極利用をしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物利用者が、本施設を利用しやすい様、自転車置き場、駐車場の確保、またそれらのものを適切な位置へ配置した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	西消防署庁舎建設工事	BEE	BEEランク
	建設地	堺市西区鶴田町89-1、89-3、87-1、683-3	1.2	B+
	主用途/延床面積	事務所 / 2,607.82 m <sup>2</sup>		

2. 重点項目への取組み		
重点項目	評価点	取組み度
CO <sub>2</sub> 削減	3	
省エネ対策	3	
みどり・ヒートアイランド対策	2	
安全快適な暮らし	4	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア					
CO <sub>2</sub> 削減		評価項目		スコア	評価点
	地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.4	3
省エネ対策		評価項目		スコア	評価点
外皮性能		CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	3.0	3
			住居・宿泊部分	0.0	
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		2.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		4.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		4.2	
	効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.8	
みどり・ヒートアイランド対策		評価項目		スコア	評価点
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		2.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		2.0	
安全快適な暮らし		評価項目		スコア	評価点
	バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	4
	耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		4.6	
	地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		3.0	
	交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		5.0	

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	